

**車いすの寄贈
ありがとうございました**

関西遊技機商業協同組合様から、車いすを1台寄贈いただきました。
この車いすは、本会の車いすの貸出事業に活用させていただきます。



車いすの無料レンタル

一時的に車いすが必要になった方に車いすをレンタルしています。
対象は向日市在住の方で、貸出期間は1週間以内、費用は無料です。
このような時に利用できます。
●旅行や行楽などで利用したい時
●介護保険サービスの車いすレンタルを申込み、納入するまでの期間
●急な病気や怪我により車いすが必要な時
**【お問い合わせ】 地域福祉課
TEL.932-1961**

卓球バレーを楽しもう!

●日時：4月4日(火)
午後1時30分～午後3時30分
●場所：向日市福祉会館2階
機能訓練室
●内容：向日市身体障害者協会の皆さんを講師に招き卓球バレーを行います
●対象者：聴覚に障がいのある方
(※手帳の有無は問いません)
●参加費：無料 ●定員：15名
**【お問い合わせ】
障がい者地域生活支援センター
TEL.932-1990**

ボランティア保険等のご案内

安心してボランティア活動を行うために心強い味方「ボランティア保険」は、ボ

ランティア・市民活動を行う個人を対象に年度単位でご加入いただける保険です。

【プラン・保険料】

- ①基本コース 年250円～
※活動中における万一の事故を補償
- ②天災コース 年450円～
※活動中の地震・噴火・津波によるケガを補償
- ③福祉行事保険 1日30円～
※福祉行事を主催される方が、安心して福祉行事を行っていただくための保険です。

**【お問い合わせ】
地域福祉課 TEL.932-1961**

**福祉サービス利用援助事業
「生活支援員」募集**

認知症や知的・精神障がいのある方の自宅へ訪問し、日常生活に係る金銭管理(生活費の払戻しや各種支払い手続き)や郵便物の確認、整理等を担います。

- 活動頻度：1～2時間/回
(担当いただく利用者によって変動)
- 時給：840円/時間
(別途事務費の支給有)

**【お問い合わせ】 地域福祉課
TEL.932-1961**

ホームヘルパー募集

- 資格：介護職員初任者研修修了者(旧ホームヘルパー2級)・介護福祉士
※無資格の方はご相談ください。(資格取得助成制度有)
- 勤務場所：向日市
- 勤務時間：午前7時～午後10時まで
応相談
- 時間給：1,440円～1,890円
※勤務時間帯、曜日、経験年数により異なる。各種諸手当あり

- 募集人員：3名程度
- ※その他：有給取得率80%、職場満足度88%(H29.2ヘルパー向けアンケートより)、離職者H28年度1名
- 【お問い合わせ】 ホームヘルプセンター
TEL.932-1968**



**デイ・サービスセンター
職員募集**

充実した新人研修で安心のスタート!

- 仕事：要介護高齢者の入浴・食事・排泄等の介助、送迎車添乗、食事準備、レクリエーションの企画・進行、記録、等
- 時間：8:30～18:15の間で本会が指定する時間 午後以降勤務歓迎
- 資格：無資格、未経験OK
◎資格取得支援制度あり
- 時給：1,000円～
- 応募：まずはお気軽にお電話ください。見学のみも大歓迎です。

**【お問い合わせ】 デイサービスセンター
TEL.931-3294**

**善意のご寄付
ありがとうございました**

(平成28年9月16日～平成29年2月13日)

岩水 明	30,000円
東向日キリスト教会	5,000円
吉井 孝一	50,000円
医療法人回生会	50,000円
医療法人真生会	50,000円
畠中 沙恵子	5,692円
安藤 龍成	5,000円
京都新聞乙訓販売所連合会	20,000円
匿名2件	120,000円

7つのまちがい探し

「ブレーメンのおんがくたい」

「ブレーメンのおんがくたい」はグリム童話のひとつ。ロバ、犬、猫の上に鶏ののって盗賊を追い出すお話。

***応募方法**

はがき又はFAXに、①回答②氏名③住所④年齢⑤今回号で特に関心があった記事(複数回答可)⑥「福祉パレット」を読まれた感想を書いてお送りください。正解者の中から抽選で5名に図書カードをプレゼントします。

***締め切り** 平成29年4月21日(金)まで必着

***送り先** 〒617-0002
向日市寺戸町西野辺1-7
向日市福祉会館内 総務課
FAX.933-4425

平成28年10月号の答え「赤ずきん」 ①時計の短針の位置②時計の振り子の形③窓の外の木の数④おおかみの歯の数⑤おおかみのナイトキャップの形⑥赤ずきんちゃんの口の形⑦赤ずきんちゃんのひとさし指の方向



福祉パレット

ご近所福祉のまち 向日市をめざして

広げよう!
パパの子育て参加

男性の子育てを支援する事業「イクメンGO」のイベントが1月21日、イオンモール京都桂川で行われました。父親の社会参加と相互交流を目的としたもので、段ボール迷路やイクメンチェックリストなど参加型企画を実施。自身のこれまでの生活を振り返る機会にもなり、「父親がより積極的に育児にかかわる大切さを痛感した」と声があがりました。今後も社協の子育て支援事業にご期待ください!





「団塊の世代」の地域デビュー 退職後の地域活動の在り方を考えよう

これまで豊富な知識や経験、技術を培ってきた団塊の世代や元気な高齢者は、地域社会を活力あるものにするうえで欠かせない人材です。ただ、地域参加に意欲があっても、実際の活動にはつながっていない現実があります。そこで、今回は仕事の第一線から退いた後に、地域のなかでイキイキと暮らす人々をご紹介します。

産業社会から地域社会へと居場所を移す第一歩となったきっかけ、悩みや迷い、活動の魅力などリアルな声をお聞きました。みなさんも新たな活躍の場を見つけるヒントにしてください。また、社協では「シニアライフの楽しみ方講座」も開講します。お気軽にご参加ください！

定年退職者向け
シニアライフの楽しみ方講座
～地域で居場所、
つながりづくりしませんか？～
会社勤めを終えた方等が地域参加やボランティア活動に参加するきっかけづくりを目的としています。ふるってご参加ください。

日時：2017年**3月25日(土)**
10:00～12:30
場所：向日市福祉会館3階 大会議室
定員：30名程度(先着順)
講師：あそびの工房 もくもく屋
田川 雅規氏
対象：向日市在住または
在勤の概ね60歳以上の方

受講料
無料



民生児童委員が地域をつなぐ

井戸端会議 を知っていますか？



この方にお聞きしました！

向日市民生児童委員連絡協議会
西田中瀬地区 民生・児童委員
片岡 みや子さん(60代)



気軽に身近な問題について話し合う場

地域の関係づくりや情報の収集と共有化、解決策などを話し合う「井戸端会議」。向日市民生児童委員連絡協議会が主体となり、民生児童委員が担当地域内の人に呼び掛けて、年15回程度、約25箇所で開催しています。「高齢者」「子育て」などテーマはさまざま。ご近所の人が集まりやすいよう、「困っている人がいたらどうする？」「自分たちの地域を住みやすくするためには」の話につながるよう心掛けています。



気になるテーマをわかりやすく解説

昨年10月25日の会議では、向日市の居宅介護支援センターの職員を講師に招き、介護保険をテーマに話をしてもらいました。多くの人が興味を持つ内容ですが、実体験をしていないかかわりません。そこで、事前アンケートで意見を募り、資料を作成。参加者の疑問や興味に細かく答えていくことができました。参加者からは「情報収集のヒントになった」と好評で、次回開催をリクエストする声もあがりました。



おひとり・飛び入り参加もOK！

ひとつの町内など小さな単位で実施することが多く、参加者は10～15人程度におさまるようにしています。参加者同士も知り合いが多く、日ごろの悩みや意見交換が活発に行われています。お茶を飲みながらコミュニケーションを図るスタイルで、当日は飛び入り参加もOK。ぜひお気軽にお問い合わせください。

事例 1

ファミリーサポートセンター 援助会員
浜田 智子さん(63)



10年ほど前から会社でも「社会貢献」という言葉をよく耳にするようになりました。正直なところ「何をすればいいの？」という気持ちでしたが、定年を迎えて向かったハローワークで、出会いがありました。子どもと関わる仕事がしたいと相談したところ、紹介されたのが京都市の子育て支援講座。そこで自分より年上の参加者のやる気に刺激を受け、向日市の講座も受講。現在はファミリーサポートセンターの援助会員として、保育園の送り迎えなど、依頼会員の子育ての手助けをしています。命を預かる大変な仕事ですが、無垢な子どもたちの笑顔に元気をもらっています。目標は70歳まで続けること。少しでも向日市の役に立っていれば嬉しいです。



お問い合わせ

向日市ファミリーサポートセンター TEL.075-932-7831

事例 2

東物集女自治会 会長
渡邊 高志さん(69)



私が自治会の役員を初めてしたのが40代のころ。会長を引き受けると、会議に坂の上のコミセンに行くのも一苦労という高齢者が多く、知らないうちに高齢化が進んでいたことにショックを受けました。地域のつながりを見直し、「放っといたらあかん」と周囲にも声をかけ、ようやく認知症サポーター養成講座や芋煮会を開くなど、住民の相互交流を深める機会を設けるまでになりました。自身の経験から、若い人も参加できるコミュニティの形成が重要で、その実現に欠かせないのが「企業教育」だと考えています。退職前の早い段階から、



友人作りや高齢問題に対する正しい知識を学ぶことが、「ご近所福祉」の充実につながると思っています。

事例 3

個人ボランティア
八木 弘行さん(75)



仕事は絞りの着物に色を入れる職人。かつては仕事一筋で、子どもの運動会にも参加したことがないほど地域との交流は皆無でした。しかし、50歳を超えたころに友人の依頼で障がい者支援団体の理事に就任したことで少し知り合いが増え、次に障がい者の余暇活動を支援するガイドヘルパーを経験し、またぐっと世界が広がりました。現在はマジックや畑などでの土いじりがパワーの源。ボランティアセンターにも登録し、最近は保育園や夏祭りなどのステージでマジックを披露しています。人前に立つことで元気になることができました。また職人気質だった考え方が柔軟になり、人見知りも解消されました。ボランティア活動は人のためだけでなく、自分のためでもあると実感しています。



お問い合わせ

向日市社協ボランティアセンター TEL.075-932-1960